

(様式1)

令和6年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立篠原小学校運営協議会長

＜本年度の目標＞

- 委員と教員との交流の場を設け、互いの理解を深め、充実した活動を目指したい。
- 学校運営協議会委員として協議会の取り組みの方向性を共有し、具体的活動を考えてい。
- 学校運営協議会HPについて、今後は学校支援活動のみではなく、さまざまな意見等をHPに掲載するなどして、情報内容を充実させて地域や家庭への情報発信に努め、理解と協力を広げたい。

＜評価項目1＞ 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

- 学校の考えがストレートに分かりやすい資料と丁寧な説明があった。浜松市の目標や学区の子供の実態に合わせてタイムリーに変更している箇所が分かり、色々と工夫しながら学校運営をしていることを理解できた。
- 教員から注力している点や課題等、提示された視点を踏まえた上で授業参観をすることで、学校の目指す姿を子供の表れから見取ることができた。各委員の気付きを基に話し合い、理解を深めることができた。

＜評価項目2＞ 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

- 教員との交流の場を設定して話し合いを進めたことで、学校が必要としている支援活動への理解が深まった。
- 学校支援ボランティア「しのささっ子応援団」の更なる拡充を目指して意見交換をし、気負わず気軽に参加できるような支援活動を進めることができた。

＜評価項目3＞ 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

- 学校のHPの活用をはじめ、学校運営協議会の取組や学校支援活動をまとめた学校だよりを保護者への配付、地域への回覧を通して、情報発信に努めた。
- ボランティア希望者がHPから参加の申し込みをして支援活動に取り組む流れが定着し、よりスムーズに参加できるようになった。

＜評価項目4＞ 今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標（取組の重点）

- 学校運営協議会委員として、協議会の取組について理解し、充実した活動を進めたい。
- 委員と教員との交流の場を意図的に設定し、互いの理解を深め、具体策を考えたい。
- 保護者・地域・学校間(幼保こ小中)・職員間での交流の機会を大切に、学校支援活動をより充実することができるよう、情報収集や発信に努め、より理解と協力を広げたい。